

## 地域における性教育推進のための具体的方策の検討

### 岡山県における性教育の実践と課題

中村 常定

#### 要約

思春期問題を主軸とした母子保健事業は、保健医療機関と、教育関係機関との連携なくしては、その成果は期待し難い。

従来、とくになじまなかつた保健行政機関と、教育行政機関が、多くの親たちとの具体的活動を通して、ようやく相互の関連を求め、共通の問題として取り組むようになったのは、次のような事情による。

地域ぐるみの性教育をテーマとして活動をつづけてきた、県の性教育の実践に影響力をもつ、岡山県性教育協議会（以下岡性協）の実践と、平成元年度にはじまる母子衛生を中心とした公衆保健活動を展開している岡山県愛育委員会の、十代妊娠問題についての事業とのかかわりあいにはじまる。この両者の連携をよりつよいものとし、継続的に発展するものとして、地域に育ちつつある、性と子育ての学習をすすめる、母親たちのグループのいくつかの存在がある。

これら三者の関連する具体的実践をもとに問題をあげ、今後の母子健康の課題をさぐることにする。

#### 実践と問題

### 1. 十代妊娠問題に関する事業の問題

#### 1. はじめて思春期問題にふみ込む

##### 愛育委員活動

岡山県下で、思春期問題への取り組みが全県的に論じられたのは、愛育委員連合会の十代妊娠人工中絶半減運動という事業の展開からといえよう。愛育委員会は、県下18の地域ごとの保健所単位に組織され、各郡、市、町村別に細分され、さらに各地域ごとに居住する委員たちは、地域の母子保健の担い手として活動し、県内の乳児や新生児の死亡率は全国的にみてきわめて低く、母子保健はトップレベルを保持してきたとされた。にもかかわらず、十代の人工妊娠中絶率はきわめて高いところから、この事業が愛育委員会にゆだねられたのである。

従来、母子保健の対象年齢は、思春期は除外され

てきた。そのほとんどが在学中であり、学校保健分野で対応されてきたため、本事業は、学校との連携なしには推進できなかった。

事業は、まず愛育委員の研修活動が必要とされた。指導相談活動のできる愛育委員を育てること、さらに思春期の子をもつ家庭への訪問活動、十代の子や親たちの、学習体験活動の実施等が計画された。

15,000人を越える愛育委員たちは、いわば全県的に各地に張り巡らされたそれぞれの組織の中で精力的に活動し、地域に深く浸透する。始めての思春期問題であったための混迷もあったが、この事業の展開を通して母子保健実践上多くの前進があった。

保健所の意欲的な指導や、市町村の保健課等の

努力と相まって、とくに学校や親、一般へ事業の趣旨の理解を深め、母子保健への関心を高めたといえよう。

## 2. 具体的活動の展開

全県18の地域保健所単位の愛育委員会のすべでは平成元年度より、本事業を実践目標に加え、委員自体の研修並に地域の住民を対象とした活動を展開している。委員会の事務局を保健所内に置き、その指導のもとに委員会幹部たちも意欲的で年1～2回の講演会、講座を実施、併せてグループ討議、座談会をもっている。保健所単位内にはいくつかの市町村単位の委員会があり、ここでも、年1～2回の講座、講演を実施している。研修のための講演会にも多くの場合地域の学校、PTAに参加を求め、思春期問題、人間の性の認識、性教育の必等基本的な問題について学習しており、十代人工妊娠問題から思春期の健全な在り方を求めている。

県愛育委員会作製のパンフレット、「十代の愛と性」P1、P2を訪問配布している地域も多く、小範囲では関連のビデオ、映画の観賞と話し合う集いを開いているところも多い。さらに、

性意識の調査・演劇観賞の外、中高校生の体験学習活動・紙芝居・ペープサートの作成上演・性教育人形づくり等、地域の母親たちの自主的活動グループと共に実施している地域もある。

## 3. 半減運動から性教育普及活動へ

半減運動は性の抑圧につながりかねないと懸念する意見もある。性解放の風潮の中で性教育への理解も充分でない人たちによる運動なら、中絶率を低くするために性を抑制するという短絡的な考えも生れてこよう。1年、長くても3年という短かい任期、十代の性への理解も必しも充分とはいえない高年令の委員等という条件のための危惧もたしかに聞かれた。事業3年度にあたる平成4年1月時点での担当者たちの評価は次表のようである。

### 各項目の内、ア・イの何れとお考えでしょうか

|    |                                |    |
|----|--------------------------------|----|
| 1  | ア 幼児期からの、発達を見通した性教育の大切さが判ってきた  | 27 |
|    | イ 思春期の性の問題だけが強調されるようになった       | 4  |
| 2  | ア 人命の尊重の考えかたが理解されてきた           | 27 |
|    | イ 人権の問題としての性を考える点が深まらなかった      | 9  |
| 3  | ア 女性の性の理解が深まり、女性の自立の必要が認識されだした | 24 |
|    | イ 女性がしっかりしなければならないとの考えだけが進んだ   | 7  |
| 4  | ア 男女のより良い人間関係を深める意識が高まった       | 23 |
|    | イ 十代の性を抑圧しようという考えが強まった         | 5  |
| 5  | ア 学校や地域との連携が良くなり、今後の活動の展望が出来た  | 22 |
|    | イ 学校等との連絡は不十分で、地域ぐるみの推進は望めない   | 12 |
| 6  | ア 高齢者まで人間の性の在り方が理解されだした        | 20 |
|    | イ 高齢の愛育委員には、現代の十代の性の理解は無理であった  | 11 |
| 7  | ア 避妊教育の必要が理解され、望まない妊娠は減少するだろう  | 20 |
|    | イ 避妊を教えること性が乱れるという考え方が根強い      | 8  |
| 8  | ア 一般の性意識が高まり、セクシアリティの理解が進んだ    | 20 |
|    | イ 中絶のこわさが問題になり、人間の性の理解まで進まなかった | 12 |
| 9  | ア 愛育委員の研修が進み、意欲的に活動できだした       | 15 |
|    | イ 委員の任期が短く研修が深まらず、不十分であった      | 19 |
| 10 | ア 事業の趣旨がよく理解され、成果は上がると思われる     | 8  |
|    | イ この事業だけで成果を望むのは無理である          | 25 |

- 15 保健所, 26 主要市町愛育委員会事務局の解答実数 -

幼児期からの発達を見通した性教育の大切さをあげる保健所単位の解答が圧倒的であり、性教育への関心の高まりと理解をすすめてきたことと共に、中絶半減そのもの成果をこの事業に望むことはできないとするものが多いのは当然といえよう。

十代の性を抑圧しようという考えは、なお一部に根強い。

#### 4. 学校等との連携に関する問題

事業推進に当って、どう教育機関へ働きかけ、どう反応したか。調査解答を見ると、地方教育委員会・学校長・教頭等の管理職・担当教師へと三重に働きかけたのは保健所単位 4/15、市町村単位で 3/26。しかし、積極的な協力を得たとするものはここにはない。多くは校長、担当教師に連絡要請し、協力をえたとするもの 8/15、9/26

がある半面、非協力・無視されたとするもの 1/15、3/26、一部のみ協力的 6/15、9/26 であり、学校長の姿勢・教師の消極性・学校の閉鎖性まで指適するものがあった。

さらに、県や地方行政の関連システムの壁を痛感し、現場での連携を阻む最大の要因との意見もあるが、PTAや一般へ具体的な活動を通して働

きかけ、実質的な協力をすすめるという考え方が多くよせられている。

意欲的に実践をすすめている学校の実践から学ぶ、あるいは積極的な教師の指導協力を得た。さらに自主的学習グループの意欲的な協力参加が性意識の問題に深くかかわる学習となったとの報告もあった。

#### 5. 事業の今後の課題

何が今後の課題となるか。「学校や地域との連携がよくなり、今後の活動の展望が開けた」4/15 10/26としつつもなお、今後の課題とするもの 11/14と 10/26であるが、この問題こそ、今後母子保健の重要課題とすべきだとする意見が多い。

本事業を「思春期健康づくり」「さわやかな思春期のために」「正しい性意識を一家庭で、地域で連れいして」「歩みよう・現代っ子の性」と表現し「中絶半減」の生の言葉を避けているのもそれを直接の目的とするよりは、人間の性の理解から、豊かな性意識を育くむことの重要性やセクシアリティの確立をめざす性教育の普及推進の必要を、事業をすすめる中で学んできたからであると思われる

## 2. 地域ぐるみの性教育をテーマにする 岡山県性教育協議会の活動

### 1. 多様な会員構成と活動

県内性教育の実践に影響力をもつ岡性協は昭和60年9月、27名の教師たちによって結成された。昭和50年度はじめて、岡山県教育委員会が性教育の名称を使用、研究指定校制度を発足させたが、当時より、その実践にかかわってきた人たちであり、機関誌発行、月例研修会等を通じ、教育関係者をはじめ、一般や親たちの会員が増加、

十代の妊娠中絶運動のはじまった前後より、医療保健関係者の入会が増加している。

会発足と共に継続されている主な活動は次のようである。

#### 月例地域研修会

年12回（内1回は研究大会）毎月会場、地域

を変えて実施、会員外の参加をもすすめ、性教育の普及にもつとめる。(すでに60回を超えている)

### 機関誌活動

隔月発行、実践情報を伝え、学習の場とする。会員による手渡し等による配布活動も実施、関係機関へも配布理解と協力を得る。(既刊39号)

### 岡山県性教育研究大会

年1回、本会主催、岡山県教育委員会、県医師会、岡山市教育委員委員会の後援による。年間の実践にもとづいて報告提案と分科会討議に地域ぐるみの性教育を主張。(6回大会終了)

### 研修記録集編集

年1冊、会員の実践論文の外、研究大会等の講演問題提起等集録、一般へも販売普及活動を継続。(既刊6号)

会員構成の内訳は次表のようである。(会員数)

| 種別<br>年次 | 総数  | 医・保<br>関係 | 教育<br>関係 | 親<br>一般 | 補<br>導<br>関係 |
|----------|-----|-----------|----------|---------|--------------|
| 昭61      | 293 | 7         | 193      | 76      | 17           |
| 62       | 360 | 9         | 251      | 82      | 18           |
| 63       | 412 | 12        | 264      | 117     | 19           |
| 1        | 432 | 18        | 288      | 119     | 17           |
| 2        | 471 | 27        | 299      | 128     | 17           |
| 3        | 507 | 35        | 317      | 133     | 17           |
| 〃/2月末    | 537 | 43        | 330      | 146     | 18           |

保幼、小中高校教師の外、教育行政・大学研究者・医師・保健婦・一般の親・教護院関係者・マボリス・いのちの電話・女性解放運動にかかわる者等、その人的構成は多様である。

## 2. 総合的性教育の推進をテーマとする研究大会

岡性協の組織をあげて取り組む最大行事であり

年間各分担のチームは、大会に向けての取り組みを継続、その推進の力となっている。特に県内各地での実践活動に基盤をおいた報告活動の場と位置づけており、より広範な地域での学校や愛育委員会の実践、自主的な学習グループ等の活動を包括し、整理し、明日の実践や学習の糧とするための集いとしたとしている。

昭和61年度以降 大会参加者の状況は次のようである。

|     | 参加<br>総数 | 会員<br>参加 | 一般<br>親 | 研究者<br>指導者 | 保健<br>医療 | 障害教<br>育関係 | 備 考                 |
|-----|----------|----------|---------|------------|----------|------------|---------------------|
| 昭61 | 559      | 137      | 5       | 6          | 13       | 44         | 全国大会<br>岡山関係<br>参加者 |
| 62  | 340      | 98       | 8       | 6          | 4        | 13         | 会場のため<br>参加制限       |
| 63  | 625      | 152      | 18      | 13         | 7        | 22         |                     |
| 平 1 | 620      | 140      | 13      | 12         | 9        | 28         |                     |
| 2   | 576      | 129      | 18      | 11         | 15       | 19         | 当日参加者<br>含まず        |
| 3   | 647      | 155      | 40      | 15         | 30       | 41         |                     |

大会では冒頭、教育、保健、地域のそれぞれの代表者が実践に基づく提案を行う。全体講演、若しくはシンポジウムの後、分科会をもつが、第6回大会(平成3年度)は12の分科会に分かれ報告と討議の外、ロールプレイ・ソシアルドラマ等を混じえた学習をも展開し、過半数の分科会では教師、親、保健関係者が一体となって学習をすすめている。とくに保健所関係者や愛育委員の参加が増加したのは、10代中絶問題に対する事業がすすめられたからであり、この大会を通しても学校と保健関係の連携が一步前進したといえよう。大会後、岡性協関係者への講演や学習会での指導依頼が各地で行なわれるようになった。

愛育委員会の事業担当者たちは、岡性協並びにその主催する性教育研究大会にどうかかわり、ど

うとらえているか。平成3年度の実情をみると、保健所関係への案内状をもとに参加を誘いあい、あるいは役員会で参加をすすめ、多数分科会に分散参加し報告会をもっている保健所もある。参加費は、愛育委員会の活動費等で負担しているところが半数近くに及んでおり、年々大会への関心が高まり、日常的な母子保健活動と岡性協とのかわりあいを指摘するものもあった。研究大会への

参加については、参加して、他地域での活動を知り、その後交流をはかっている。連帯感が生まれた。基本的な学習ができた。分科会がもりあがり基重な情報が得られた等、評価しており、多くは学校等との連携の必要を痛感したと述べている。

さらに、母親たちを中心とした性と子育てのグループの多くは、研究大会に深くかかわり、地域の愛育委員の事業にも積極的に参加している状況が伝えられている。

### 3. 地域における性と子育ての学習活動 自主的組織的なグループの育成

#### 1. 地域で行動する母親たちの集い

「ささやかなものであっても、そこに育つ力はすばらしい」一地域に育つ母親たちの、性と子育てグループの学習活動に接した人たちはそう感じるという。その力が、十代中絶問題にとりくむ愛育委員会の事業に影響し、性の解放による人間の性の真実の学習の必要を認識させる力ともなっているいくつかの例がある。これらの母親たちは、岡性協の学習活動や研究大会で、家庭や地域でのおとなの性意識の問題への体当りの報告や問題提起を行ってきた。

母親たちが燃えること—自主的グループのリーダーたちは、生命を、性を、母親たちの立場でみつめ、語りあい行動してきた。

性を語ることははしたないことであり、性を遠ざけてきた女性たちが、子育ての中で超過激セックスコミック誌から目をそらしてはならないとし、生命や性の真実を学ぶなかで、紙芝居やペープサートをつくり、上演し、性教育の人形づくりを通して、自らの性意識を問い直してきたといえるようである。

誤解や中傷もあり、いくつかの障害に会いなが

らも、母親たちは連帯し、教師や保健婦、愛育委員、PTAに子育てと性の問題について働きかけている。

#### 2. 自主的学習を支える行政

「みなさんが学習してきたことを大会で発表してきてほしい。大会で学んだことを、この地域に広げてもらいたい」柵原の自主的活動グループは今年はじめ、町行政から、大会参加の支援を受けた。町営バスが全員を送迎した。十数年続いた子育て母の会が、性教育を本格的にとりいれるようになって6年経過した。ようよくして教育委員会が自主的活動を全面支援することになったのである。

隣町の英田の活動グループや、作東のグループでも参加費は教育委員会が支出し、送迎バスを出した。何れも数年以上にわたる母親たちの地味な活動があり、地方自治体がその活動をバックアップしているのである。

その何れにも積極的な活動家があり、その多くは岡性協のメンバーでもある。岡性協の活動や研究大会に母親グループの果している役割は大きい。

主な性と子育ての自主的学習グループとその活動

|    | 発足年 | 主な活動と特色                                  | 研究大会発表回数 |
|----|-----|--|----------|
| 柵原 | 昭40 | 健康まつり ビデオテープ購入 ペープサート上演<br>紙芝居作製 町Pゼミへ発展 | 3回       |
| 吉井 | 60  | 会員学習会 平成3年より新メンバーも生れる                    | ・        |
| 作東 | 〃   | 健康まつり 紙芝居 女子自立活動の展開                      | 3回       |
| 英田 | 〃   | 紙芝居 学習会 町主催講演会へ発足                        | 2回       |
| 熊山 | 62  | 有料の学習会 平成元年より中止 再開の動きあり                  | ・        |
| 美作 | 平1  | 健全育成学習会 平成3年で中止                          | ・        |
| 山陽 | 1   | 毎月学習会実施 ビデオテープ購入 町P母親委へ                  | 2回       |
| 久米 | 2   | 性教育懇 町内小中P主体の学習会                         | ・        |

岡山朝日、桃が丘、倉敷二福、真庭勝山、高粱落合、勝田勝央等で自主的グループの継続的学習が計画され活動をはじめている。

考察

1. 一般の貧しい性意識が性教育の普及を阻む最大の原因となっている。そのため、母子保健に取り組み、実績をあげてきた愛育委員会の委員自体の研修を深めるとともにその地域活動としての十代中絶問題を皮切りとして“人間の性”とその教育の必要性をもとに実践が推進されるよう指導的役割をになってきた保健所等の、意欲的な援助に期待される。

2. 学校における性教育はかなり普及してきたとはいえ、むしろ意欲的な一部の教師のものであり全校的な指導体制は未だしの感が強い。平成4年度からの指導要領の改訂に伴い、教科書は二次性徴や人間の生命の発生や誕生が記載されることを受けて一部教室実践が報導されているが、必しも親たちの共感を呼ぶものにいたっていない。学校保健のわくにとどまらず、親や地域へ働きかける教師は数少ないが、教師は視野を広げて親たちに学び、子どもたちの発達課題をふまえた実践を拡げていく必要がある。

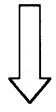
3. 岡性協には多くの立場の会員がおり、全県的

な研究大会にはそれぞれの立場からの実践や問題が提起され、論議を呼んでいる。中でも特色ある実践や発言は、地域で継続的に学習活動する母親たちのグループのリーダーたちである。

妊娠し、胎動や自分のからだの変化と共に周囲のあつい期待のなか励ましや援助をうけながら苦痛を超えて、分娩し、新しい生命を育ててきた中での母子一体感こそ、真実の人間の性への深い理解の根源となっているのではあるまいか。

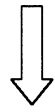
大会の全体会では母親たちの創作した生命誕生のペープサートが多く共鳴をよび、自作の紙芝居やスライドが学校や愛育委員活動に波紋をひろげた。ロールプレイに参加した母親は、自信をもってわが子に性の真実が語れると言い、来年は教師たちを誘って参加すると発言している。

4. 母親たちの、性と子育ての行動的な活動は、全県的には、なお点の存在に過ぎないだろう。しかし、それぞれのリーダーが連携して学習を深めあい、地域ごとのPTA・教師・愛育委員たちをもまきこんでの実践は、今後の岡山県における母子保健活動に影響を与え、特色あるものにしていくことが期待されよう。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 要約

思春期問題を主軸とした母子保健事業は、保健医療機関と、教育関係機関との連携なくしては、その成果は期待し難い。

従来、とくになじまなかった保健行政機関と、教育行政機関が、多くの親たちとの具体的活動を通して、ようやく相互の関連を求め、共通の問題として取り組むようになったのは、次のような事情による。

地域ぐるみの性教育をテーマとして活動をつづけてきた、県の性教育の実践に影響力をもつ、岡山県性教育協議会(以下岡性協)の実践と、平成元年度にはじまる母子衛生を中心とした公衆保健活動を展開している岡山県愛育委員会の、十代妊娠問題についての事業とのかわりあいにはじまる。この両者の連携をよりつよいものとし、継続的に発展するものとして、地域に育ちつつある、性と子育ての学習をすすめる、母親たちのグループのいくつかの存在がある。

これら三者の関連する具体的実践をもとに問題をあげ、今後の母子健康の課題をさぐることとする。